

## 西武中学校における居ながら施工

### 1 条件の整理

- (1) 工事予定年度における生徒数（クラス数）【第2回資料より】
  - 現在の生徒数（クラス数）：143名（5クラス）【R1年度】
  - 工事期間中の生徒数（クラス数）：132～156名（5～6クラス）【R8～10年度】
- (2) 教室等の機能移転にかかる費用を抑える
  - 機能移転に費用がかかると思われる施設
    - 職員室（防災機能、機械式警備機能、通信機能等が集中しているため。）
    - 放送室（放送設備）
    - 調理室（給排水、ガス等の設備配管）
- (3) 仮設費用を抑える
  - 必要な教室をできる限り既存施設内で確保し、仮設費用を抑える。
- (4) 新校舎建設に必要な建築面積の確保
  - 新校舎の延べ床面積（階数）＝概ね 6,300 m<sup>2</sup>（3～4階）【第5回資料より】
    - 武蔵中学校の新校舎事例  
 延べ床面積≒4,804 m<sup>2</sup> 建築面積≒1,807 m<sup>2</sup> 3階建て  
 延べ床面積と建築面積の割合＝4,804 m<sup>2</sup>÷1,807 m<sup>2</sup>＝2.658
    - 武蔵中学校を参考にした場合の新校舎建設に必要な床面積（3階建ての場合）  
 新校舎建設に必要な建築面積＝新校舎延べ床面積÷2.658  
 6,300 m<sup>2</sup>÷2.658≒2,370 m<sup>2</sup> 新校舎建設に必要な建築面積＝2,370 m<sup>2</sup>（概算）

### 2 西武中学校における教室等の機能移転案

- (1) 施工時における普通教室数は、最大で現在よりも1クラス多い6クラスを確保する必要がある。
- (2) 職員室、放送室、調理室など機能移転に費用がかかる管理・特別教室が南校舎に集中しているため、南校舎を中心に活用しながらの施工が現実的である。
- (3) 南校舎1階を全て普通教室に変更することで、施工期間中に必要な最大6クラスを確保することが可能と思われる。
  - 現在の南校舎1階は、普通教室：2、進路資料室、学習室、第2美術室、相談室として使われている。
- (4) 北校舎の特別教室である第1音楽室と第1理科室は、南校舎に第2音楽室、第2理科室として既にあるため、機能移転の必要はないと思われる。
- (5) 北校舎にある残りの機能（図書室、被服室など）は、西校舎に機能移転することで、北校舎の機能は、全て、南校舎と西校舎に振り分けることができる。  
（西校舎の金工室、準備室 ⇒ 図書室、被服室）
- (6) 北校舎の機能だけであれば、概ね南校舎と西校舎へ機能移転可能と見込める。

### 3 居ながら施工案

- (1) 施工案1（北校舎のみを先行して解体し、南校舎と西校舎の既存活用）
  - 北校舎の機能を南校舎と西校舎に移転する改修工事をする。
  - 北校舎を解体し、中庭を含めて新校舎の建設をする。（北校舎+中庭）
  - 新校舎へ引っ越しをした後、南校舎と西校舎の解体をする。
- (2) 施工案2（北校舎及び西校舎を先行解体し、南校舎の既存活用と仮設校舎の設置）
  - 北校舎の機能に加えて西校舎の機能（特別支援教室：2クラス、パソコン室、木工室、図書室、被服室など）を補うため、仮設校舎を建設・機能移転する。
  - 北と西校舎を解体し、中庭を含めて新校舎の建設をする。（北校舎+西校舎+中庭）
  - 新校舎へ引っ越しをした後、南校舎と仮設校舎の解体をする。
- (3) 施工案3（全ての校舎を活用しながら、校庭など別の敷地で新校舎を建設する）

